

O022-P11

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

田淵露頭にゴールドenspайクを - 中・下部更新統境界国際模式地候補の整備・保全と物語観光 - Aiming to gain the Golden-spike to Tabuchi outcrop -Consolidation and preservation of the type section proposed-

会田 信行^{1*}, 古関東深海盆ジオパーク認証推進協議会²
Nobuyuki Aida^{1*}, Council for Certifi. of Chiba Geopark²

¹千葉県立小見川高校, ²地球汚染・医療地質基礎科学研究センター
¹Omigawa Senior High School, ²Theoretical Study Center for E.P.M.G.

1. はじめに 平安時代に書かれた更級日記には、作者の菅原孝標女が上総国府（現千葉県市原市）を出発して途中の池田郷（現千葉市）で悪天候のため宿泊したことが記されている。その背景のひとつに池田の池の存在が指摘されていた。これを科学的に検証しようと、「池田の池復元研究会」が組織され、2本の試錐試料の分析を行った。その結果、池田の池の堆積物を確認し、池の存在はほぼ確実となった。この研究会を母体に、古関東深海盆ジオパーク認証推進協議会が2009年12月に組織された。協議会となって最初に行った事業が表題の露頭の整備・保全である。

2. 国際模式地とゴールドenspайク 2009年に第四紀の始まりがGelasian基底（松山・ガウス境界、258万年前）と決着し、シシリア島が国際模式地に選ばれた。国際模式地にはIUGSからゴールドenspайクと呼ばれる金の紙が打たれる。第四紀の区分で未決定は中・下部更新統境界である。Gelasianの場合と同様に地磁気極性の変化を基準に、ブリュンヌ・松山（B/M）境界付近（78万年前）で意見は一致している。国際模式地の候補地は3カ所で、市原市田淵の養老川右岸の露頭とイタリアの2カ所である。

B/M境界は上総層群国本層中にあることはこれまでに知られており、田淵露頭ではB/M境界の約1m上位に白尾（TNNT）火山灰と呼ぶ古御岳火山起源の白色細粒火山灰層がある。この白尾火山灰層の基底が中・下部更新統境界と提案しているが、B/M境界付近に、新たに火山ガラスの存在を確認した（名称等は不明）。国本層は堆積速度が3~4mm/年とイタリアに比べ1桁以上大きいのが特徴で、情報量もはるかに多い。国際模式地としての条件を比較してもイタリアに勝っている。

3. 国際模式地認定に向けた取り組み 国際模式地の決定が2年以内になされるとの情報があり、早急な対応が必要となった。最初にイブニングセミナー（千葉市内2カ所）および地元説明会（田淵町会）を開催し、露頭の整備・保全を行った。露頭名を「地球磁場逆転期の地層」とし、説明看板を設置した（2010年10月）（英語表示板を2011年1月設置）。また駐車場から露頭までの道の敷力所に道案内板を、露頭には地磁気極性の表示（正磁極は緑、逆磁極は赤、中間磁極は黄色の各ラベル）と説明パネルを設置した。これらは地元の田淵町会との共同作業である。設置後は休日を中心に露頭見学者が増えている。次に露頭の重要性を正しく評価してもらうために、国際シンポジウムを開催し、国際模式地認定に向けた行動を開始した。国際シンポジウムは2011年1月15・16日に市原市で開催した。INQUAアジア太平洋層序委員会との共催で、多くの学会・団体・企業等の後援をいただいた。実行委員会（実行委員41名）を別に組織し運営にあたった。シンポジウムではIUGS層序委員会委員Head教授とINQUA国際第四紀層序編年委員会委員長Pillans教授を招待し、現状を詳細に説明してもらうとともに、日本側からは田淵露頭の優位性をデータで示した。現地検討会では、田淵露頭のほか養老川に沿ってCalabrian相当層を酸素同位体ステージに基づいて見学した。堆積速度の大きさに驚いていたのが印象的で、CalabrianとGelasianの境界（オールドバイ上面、180万年前）を含めて、千葉の方が圧倒的に良いとの意見をいただいた。また今後に向け有益な指摘・方向性が提案され、この取り組みは次の段階に進んでいる。

4. 田淵露頭にゴールドenspайクを このシンポジウムは新聞等で取り上げられたこともあり、一般の参加者数が100名以上になった。翌日の田淵露頭の見学の際には、大型バスで訪れる団体もあり、これまでになく露頭前が賑わった。もしゴールドenspайクが田淵露頭に打たれることになれば、観光の拠点として地域の活性化に役立つことは確実である。恒久的施設の設置構想も出され、ジオサイトとして整備する予定である。

田淵と池田の池はともに市原市と関わりがあり、古関東深海盆がキーワードになる。その形成から現在までの変遷の様子がひとつの物語となって、その一断面を房総半島の各地のジオサイトで見学できる。この千葉でのジオパーク構想に向けた活動は始まったばかりであり、田淵、池田の池に続くジオサイトの整備を進める予定である。

キーワード: 中・下部更新統境界, ゴールドenspайク, 古関東深海盆, 白尾火山灰, ブリュンヌ/松山境界, 国際模式地